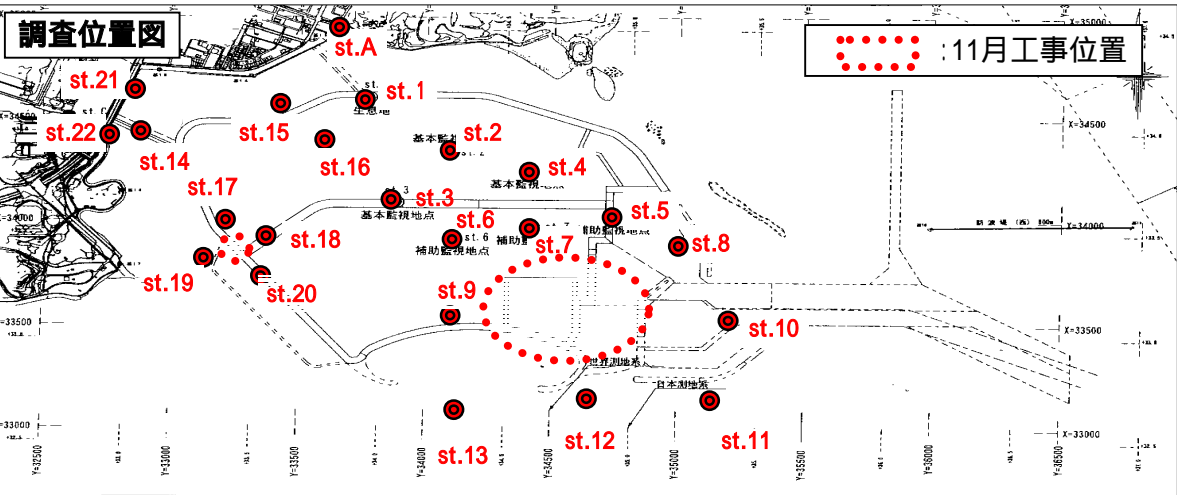


		異常確認の有無	工事との関連性	対策の検討
目視観察結果	目視観察の結果、工事に伴う異常は確認されなかった。			
	全般結果	基本・補助監視地点 基準値:SS=7mg/l	・基準値を超える値は観測されなかった。	・対象期間を通して、工事現場周辺(St.5~13、17~20)から工事に由来すると考えられる基準値を超えた濁りは観測されなかった。 ・観測された濁りは、波浪や低潮位時における底質の巻上げ、降雨による流入水路からの濁水の流入などが影響していると考えられる。
工事現場周辺監視地点 基準値 St.5~7:SS=7mg/l St.8~13、St.17~20: SS=11mg/l		・基準値を超える値は観測されなかった。		
その他の監視地点 基準値:SS=11mg/l		・St.14で基準値を超える値が10回観測された(12~83mg/l)。		
流入水路部		・SS=11mg/lを超えた回数:St.A=49回(12~199mg/l)、St.21=32回(12~169mg/l)、St.22=30回(12~269mg/l)		
水質調査結果	基本・補助監視地点	・基準値を超える値は観測されなかった。	・工事由来の濁りは観測されなかった。	・特に無し
	工事現場周辺監視地点	・基準値を超える値は観測されなかった。	・工事由来の濁りは観測されなかった。	
	その他の監視地点	・St.14では1日、11~13日、15~17日、23日、29日に基準値を超えた値が観測された。基準値を超えた観測回数は10回で、12~83mg/lが観測された。最高値は13日午前(83mg/l)に観測された。 ・St.14を除くその他の監視地点では基準値を超える値は観測されなかった。	・工事現場周辺では工事に由来すると考えられる濁りは観測されていないため、降雨による流入水路からの濁水の流入、波浪や低潮位時における底質の巻上げなどが影響していると考えられる。	
	流入水路部	・St.Aでは1~21日、24~30日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は13日午前(199mg/l)に観測された。 ・St.21で1~4日、7~19日、23日、26日、28~30日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は13日午前(169mg/l)に観測された。 ・St.22で1~14日、16~19日、22~27日、29日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は13日午前(269mg/l)に観測された。	・流入水路からの濁水の流入や波浪による底質の巻上げなどが影響していると考えられる。	
補足項目(新種等)調査結果	・H17年度環境監視計画に基づく「補足項目(新種等)」に関する年間調査計画は以下のとおり。 ウミムシ類監視調査:H17年4月・7月・9月(台風後)・11月・H18年2月 ニライカイクワ調査:H17年4月・7月・9月(台風後)・11月・H18年2月 オサガニヤドリガイ監視調査:H17年4月・5月・6月・7月・8月・9月(台風後)・11月・H18年2月 オキナワワカニ生息監視調査:H17年4月・7月・8月・9月・9月(台風後)・11月・H18年2月 ・結果についてはホームページにて公表中。			
工事実施状況	・仮設橋梁石材投入、均し:1,2,4,5,7,8,11,12,14~17,23~25,29,30日(合計17日) ・海上汚濁防止膜設置及び撤去:3,10,12,30日(合計4日) ・海上石材投入、均し:1~5,7~11,14~19,21~26,28~30日(合計25日)			